



重慶だより

菊池 実 (四川外国語大学)



重慶市内を流れる長江

2018年9月から重慶の四川外国語大学に勤務しています。中国西南地方を代表する大学のひとつです。黒龍江省のハルビン師範大学には2015年3月から18年8月までの3年半勤務しました。ちょっと中途半端なようですが、中国では新学期の変わり目の時でした。

歴史的興味尽きない町 重慶

重慶はハルビンの南西約2500kmの地、日本からは飛行機で約5時間15分です。市中心部で長江と嘉陵江が合流する風光明媚な都市、「山水之城、美丽之地」と形容されています。坂道や石段が延々と続く土地で文字通り山城の感がします。



重慶の夜景

日中戦争中の1938年から臨時首都になり、その遺跡が市内各所に残されています。そして現在は文化財として保存・公開されています。例えば、市中心部の東にある南山には「抗战遗址(抗战遺跡)博物館」があり、蒋介石の官邸、宋美麗の旧居、地下壕などを見学することができます。

また紅岩村には「中共中央南方局八路军駐重慶办事处(八路軍駐重慶事務所)旧址」などがあります。さらに「周(周恩来)公館」「宋庆龄(宋慶齡)旧居」、そして地下工場博物館「重慶抗战兵工旧址」として公開されています。

日本軍による重慶爆撃の跡は市中心部にある「较场口大隧道惨案(較場口大隧道大惨事)」。1938年2月から1943年8月まで日本軍は断続的に爆撃を実施しています。それは臨時首都となった重慶市民の抗日戦争継続の意思を押し潰す、いわゆる無差別爆撃でした。こうした事実を伝える遺跡の代表が「防空壕」です。中国語では「防空洞」といいます。嘉陵江に沿った崖面には今も多く防空壕が見られます。文化財指定になったものもあります。

四川外大のある場所は市中心部の西、歌楽山の麓、かつて国民党の戴笠率いる軍統組織とアメリカ軍との合作所がこの山麓一帯にありました。大学周辺にはこれらの施設、たとえば小説「紅岩」の舞台となった、白公館や渣滓洞などの秘密収容所、西安事件の立役者のひとりである楊虎城将軍が囚われていた場所や殺害された場所も残されています。なにしろ大学正門のすぐ前には「紅岩魂陈列馆(陳列館)」が堂々と建っていますし、大学構内には新四軍軍長の葉挺将軍が囚われていた施設も残されているのですから。これら一帯はわたしの散歩コースとなっています。

このようにわたしにとって重慶はハルビン同様に歴史的に大変興味の尽きない町です。

日本語学部所属

大学での所属先は日本語学部です。1 学年 4 クラスで計 120 名、学部生と大学院生を合わせると約五百数十名になります。学生数からみるとハルビン師範大学とほぼ同規模です。学部の中国人教職員は 25 名、教授 4 名、副教授 8 名、

講師 11 名、秘書 2 名、ほとんどの先生が四川外大のご出身です。博士は 6 名、このうち 4 名の先生が日本の大学で取得されています。それは政策研究大学院大学、山口大学、岡山大学、中央大学です。日本人教師は私を含めて 3 名、最年長がわたくしであとは 40 代半ばともうすぐ 50 歳になられる先生です。



部屋に遊びに来た 1 年生

大学院修士課程に 17 歳女子学生！

今学期は先学期から引き続いて 1 年生の会話、3 年生の写作(作文)を教え、そして大学院修士課程 1 年生も担当していますので、月曜日から金曜日まで休みがありません。ただ木曜日の 2 コマを除くといずれの日も 1 コマです。午前中の 8 時から 9 時 40 分、もしくは 10 時から 11 時 40 分で終わります。本日(4 月 3 日)は 8 時から修士課程 1 年生を対象(32 名)にした講義がありました。わたしのかつての専門分野であった縄文時代について、縄文人の DNA と現代日本人、中国人との違いなどを

話しました。授業準備に時間がかかりますので、ほどよいコマ数といったところでしょうか。修士 1 年生のある女子学生は、なんと 17 歳です。話を聞くと本人は中学卒業後学校へは通わずに独学で勉強、そして大卒資格まで取得して第一志望の北京大学大学院には不合格だったものの本校に合格、中国広しといえども非常に稀なケースです。

学生と映画を見たり食事したり

最近学部 1 年生と週末に映画を見たり食事をしたりして遊んでいます。1 年生は 17 歳から 20 歳、わたしの部屋でビールを飲んだりもしています。1 年生のほとんどは大学に入っちはじめて日本語を学ぶ学生ですので教えるのに不安はありましたが、今は教えるのが楽しみほど上達しています。外国語大学ということで語学に対する学生一人一人の意識が非常に高いです。

さて、これからいつ頃まで重慶にいられるのか自分でもよくわかりませんが、1 年生の成長に少しでも貢献できるように努めていきたいと思っています。



名物の重慶火鍋を完食